

埼玉親善大使レポート

留学期間：令和5年9月～令和6年4月

留学先：カナダ(オンタリオ州キングストン)

氏名：鈴木 結璃子

カナダについて



カナダは、北アメリカ大陸北部に位置する国です。夏は25度程度に気温が上昇するのに対し、冬はマイナス20度以下まで下がることもあります。ロシアに次ぐ世界第2位の広大な国土には、トロントやバンクーバーのような大都市とナイアガラの滝やロッキー山脈のような豊かな自然が共存しています。公用語として英語とフランス語の二か国語が掲げられているように、歴史的背景からイギリスとフランスの文化が

融合した暮らしが広がっています。また、多文化主義政策のもと移民や難民を積極的に受け入れ、それぞれの文化や伝統を保持することを奨励しています。そのため、「モザイク社会」と形容されるように、家庭での使用言語は200を超えると言われています。

交換留学派遣先大学:クィーンズ大学(Queen's University)

私が通ったクィーンズ大学は、オンタリオ州のキングストンという小さな町に位置しています。キングストンは、英国統治下の1841年から1844年までカナダ連邦の首都だったことから、イギリスのような雰囲気も楽しむことができました。また、学生街であるため、街は学生で溢れており、治安がとても良いです。キャンパスはとても綺麗で、特にGrant Hallという高い塔のような建物とハリーポッタールームと呼ばれる図書館の一室が学生たちに人気でした。学期はじめに行われた留学生歓迎イベントでは、タミング(Tamming)というクィーンズ大学の一員として帽子を被るセレモニーや思い切りペンキまみれになるペインティングパーティ、屋外で映画を見るムービーナイト、街の名所を巡るトロリーツアーなど日本の大学では経験できないようなことを体験させていただきました。授業の中で特に印象的であったのが、「Land Acknowledgement(土地への謝意)」です。どの授業でもはじまりには必ず、クィーンズ大学は本来先住民であるアニシナベとハウデノサウニーが暮らしてきた領土に位置していると、土地に対する感謝や歴史的背景を明言します。また国としても9月30日を、オレンジ色の衣服を身につけて先住民迫害の歴史を

振り返ろうという「National Day for Truth and Reconciliation (真実と和解の日)」または「オレンジシャツデー」として定めています。1830年から1990年、カナダでは同化政策が行われ、多くの先住民の子どもたちが寄宿学校に収容され母語の使用禁止や虐待などに苦しめられ、命を失いました。寄宿学校のある生存者がオレンジ色のシャツを取り上げられたことからそれが先住民に対する同化政策の象徴となったそうです。これらを通して、カナダが英仏に植民地化されたという立場と、先住民の領土を植民地化したという立場の両方を大切に、過去の歴史として忘れるのではなく今でも残っている植民地化の跡や習慣に向き合っていることを実感しました。



タミング (Grant Hall 前)



ハリーポッタールーム



ペインティングパーティ



「すべての子どもが大切」と書かれたオレンジシャツ

現地での生活

はじめての海外生活だった私は最初、現地での生活に不安でいっぱいでした。しかし、だんだん慣れていき、日本に帰国した今ではキングストンでの生活を恋しく思うほどになりました。まず住まいについては、留学生は入寮不可であったため、現地で主流のシェアハウスで8ヶ月間過ごしていました。出発する前の5、6月から部屋探しを始め、交渉している間に別の人に契約されてしまったり、時差がありながらWeb会議アプリを使ってオンライン内見したりするなど、だいぶ苦勞しました。多くの学生が滞在先を求めているため、部屋探しの競争率は非常に高く、家賃も上昇していました。国全体でも、家賃上昇とホームレスの人々の増加はハウジング・クライシスとして大きな問題となっています。私が契約した物件は、Wi-fi や光熱費、水道代がすべて込みとなっており、ハウスクリーニングの方が週に何回か家全体の清掃を行ってくださったため、快適に過ごすことができました。食べ物については、カナダといえばプーティン(poutine)とティムホートズ(Tim Hortons)です。プーティンとは、フライドポテトにグレイビーソースとチーズをかけたファストフードです。ベーコンを加えてボリュームにしたり、トリュフを加えてフレンチスタイルにしたりするなど楽しみ方は様々で、夕食はプーティンのみと主食として扱われることもあると知り驚きました。ティムホートズはカナダ発のファストフードチェーンで、至る所に店舗を

構えています。スターバックスより安価にコーヒーやドーナツを手に入れることができるため、カナダに住む人々に大人気です。他にもダウンタウンには、日本料理店やベトナム料理店、韓国料理、イタリアン、メキシカン…など様々な国の飲食店が並んでおり、友人と食事に出かけることも多かったです。アジアンスーパーマーケットも3店舗あったため、日本のお菓子を買ったり、食材を使って肉じゃがやカレーライスなど日本料理を作ったりすることもできました。気候については、真冬はマイナス20度で雪が積もっているという日もありましたが、ウインタージャケットやスノーブーツ、ニット帽、マフラーと手袋で防寒し、学生無料の市内バスを利用することで、寒さを乗り切ることができました。冬になるとスケート場が広場に設置され無料で使用できたり、暖炉のそばでホットチョコレートを飲んだり、冬ならではのアクティビティを楽しむことができるのも魅力です。最後に、キングストンでの生活の一番のお気に入り、オンタリオ湖(Lake Ontario)の眺めです。昼でも夜でも空と水のコントラストが美しく、心が透き通るような感覚になりました。慣れない生活にストレスを感じ、たくさんの課題で疲れている時でも、一人で散歩したり、友達と座って日没を眺めたりと、のんびりとリラックスできる時間が大好きでした。

埼玉 PR 活動



埼玉県 PR 活動としては、草加せんべいや狭山茶、そして埼玉県に本社を置くちふれホールディングス株式会社の商品であるリップクリームを現地へ持っていきました。お土産として、ハウスメイトや大学での友人に和柄の折り紙でラッピングし、お礼のメッセージや名前を添えてプレゼントしました。最初はみんな、埼玉県と聞いても全くピンとこない表情をしていましたが、私の地元である埼玉の名産品であると紹介すると興味を持ってもらえたようでした。現地へ持参する荷物制限や現地で購入する調達制限がある中、少しでも埼玉の魅力を伝えることができたら嬉しいです。

最後になりますが、「埼玉発世界行き」奨学金制度があっこそ、交換留学を無事終えることができました。大変感謝しております。ありがとうございました。



オンタリオ湖